



実は目標を変更した。約一年前の出張日記で CCIE Voice への挑戦を宣言した私であるが、事情により CCIE Service Provider へと、追い求める対象を変更したのである。大した事情ではないが、機材の関係ということにしておこう。それに、自分としては MPLS コアネットワーク技術で人に劣っていると感じる部分があり、これを補強するために挑戦を思い立ったのである。

簡単にいうと、ISP やキャリアなどがお客様ネットワークを MPLS 技術等を用いて VPN にて接続するのであるが、そのコアネットワークを構築するスキルを問われる資格である。隣の席に座る N さんなどから「VRF がどうのこうの。」などと言われると

「あ、あー、そうですね」

みたいに、声を震わせながらわかったフリをしなければいけないので寂しいのである。この天才をいつか抜いてやる。

この資格は会社が支援してくれないことがあらかじめ決まっている。事業部の主力プロダクトと合致しないためである。そう言われるとなおさら

「この野郎～、勉強する環境ないけどやってやるぞ」

という気合いが入るのである。

6月にラボ受験を設定して、学科を取ることにするが自費なのでちょっと痛い。正確な金額を忘れたが、35,000円くらいだろうか。この CCIE Service Provider の学科試験は数種類から選べるようになっている。私は DSL 技術（いわゆる ADSL とか、それ関連）で受験することにした。内容はお話しできな

いが難しいです。5日間くらい、ほぼ徹夜状態で勉強して何とか一発合格することができた。これでラボ受験の資格を得ることができた。睡眠不足でふらふらである。もう、だめば。。

CCIE Service Provider のラボはシドニーとベルギーで受験できる。私は慣れているシドニーを選択するのは当然である。それに毎年 JAL からもらっているホテルクーポンがシドニーのフォーポイントシェラトンで使えることが判明し利用すれば安く渡豪できるのでこれ幸いである。学科とラボの受験費用だけで20万円近いのでこういうのは大変助かるのである。航空券もバカにならないし。

シスコの CCIE ページに書かれてあることなので特に隠す必要はないが、出題内容には MPLS Tag Switching や Traffic Engineering などの機能が必要であり、私が普段から勉強に使用している 2500Router では稼働せずに勉強できない。そこで会社の検証チームに正直に「勉強に使用する」ことを伝えた上で、勉強に使える機材を借りることができたので早速九州の営業所に送り込んだ。



私の机の下はものすごいことになってしまった。自分の Router も併せて 10 台以上もの機材で勉強している。机の下に扇風機を仕込んで冷やしている実情である。よくわからなかった MPLS 技術であるが、少しずつ理解できるようになった。6/10 にラボの予約を入れて、もう後には引けない状況である。オレは負けない。この勝負、勝ってやる。



< 6月8日(水) >

出発日。自費なので休暇で行くことになっている。朝から自宅で勉強し、昼過ぎに福岡空港経由で羽田、さらにリムジンバスで成田に向かうことにする。やはり福岡から成田出発の便に乗るのは大変である。JALは朝早くにたった一便だけであるが成田直行便がある。昼前に出発の便を利用するのであれば便利であるが、シドニー便は夜の九時過ぎの出発である。

延々と移動して成田到着。今回はグローバル会員が利用できるシャワールームで汗を流すことにした。シャワー、と言っても湯船もあるので大変良い。これが無料なので大変助かる。



チェックインはいつものようにわがまを言いたい放題である。元々Exitシートを確保していたが、隣が座ったとのこと。こりゃイカン。すかさず違うシートで3席全てをブロックできることを確保してもらった。勉強しながら行くので、隣がいると本当に大変なのでこういう配慮はとても助かるのである。

たまにはやるな、JAL も。

出発まではいつものようにラウンジで勉強する。マッサージチェアでゆったりとしながらドキュメントに目を通す。(注：画像は私ではありません)



約二時間ほどラウンジで勉強する。スポーツ新聞を読んでいると

「オレンジレンジのドラマーが腱鞘炎で離脱。メンバーを公募。」

みたいなことが書かれていた。当然、ここは例の「引越しオバサン」の出番だろう。彼女の「ひっこーし、ひっこーし」というリズムの良さには定評がある、異論もないであろう。



今回は普通にエコノミーである。3席確保できているので楽チンである。と、乗り込んだ瞬間に横になって寝るオヤジを発見。よほど眠いのだろうか。ひと通り勉強したあとで、睡眠薬を飲んで私も寝ることにする。(この画像も私ではなく、知らないオヤジです)



ちなみにこのオヤジ、トドのようにずっと寝ていた。そういえば今年のサンノゼ出張の際に似たような生物を見かけた記憶がある。ああ、そうだ、これこれ。



< 6月9日(木) >

朝の6時半くらいに起床する。ほぼ定刻通りに到着する。体が異様に疲労しているのでタクシーでホテルに向かう。自費の時は電車が恒例であるが、疲労のための措置だ。

いつもは受験地である Chatswood に宿泊する私であるが前述通りにクーポンの関係で市内のフォーボ

インツェラトンに向かう。数年前までホテルニッコーだったところだ。市内のハーバー寄りに立地しており電車の駅にも近くて便利である。タクシーの運転手さんはいきなり日本語で話しかけてくる。5年くらい日本で観光の仕事をしていたそうで、9.11などの影響で仕事が減ってオーストラリアに戻ったとのこと。日本人は働きすぎる、と当然の感想を述べていた。そうだよ。働くのが好きなんだよ。仕方ないでしょ。だから産業が発展してるんですよ。



観光ドライバーが土産物屋からコミッションをもらって「お薦めの店」などというのが自分でも嫌になって、普通のタクシーのドライバーをやっているとのこと。正直な人間だなあと思っていたが、どうやら遠回りをしているみたいだ。私ももう8回目のシドニーである。少しは地理がわかるのである。トラブルは避けたいので、それとなく地理に詳しい事を話してやっとホテルに直行を始めた。危ない危ない。

なおシドニーのタクシーのほとんどは防犯カメラを装備している。5秒に一回ほど録画してトランクにあるディスク(?)に貯め込んでいるとのこと。タクシーはよく狙われるから、という理由らしい。

フォーポイントに9時過ぎに到着する。チェックインできるかなー、と心配だったが何とか空いている部屋を探してもらって無事に部屋に入る。Chatswoodのアpartメントとは違って普通のホテルである。



外も普通の市街地である。



勉強道具を取り出して戦う体制を整える。よし、やるぞ。



おっと、その前に明日になって困らないように駅の場所と切符の買い方を学習しておこう。フロントで場所を聞いて早速駅に向かう。歩いて5分くらいで到着。プラットフォームの番号まで調べてようやく安心安心。



戻りがてら、近くのハーバーに向かう。おや、昔Nさんと受験にきた際に訪れた水族館があるぞ。修学旅行みたいな団体もいる。なかなか盛況である。



ハーバーには軍艦やら潜水艦などが停泊している。シドニーは全体的にのんびりした街でとても過ごしやすい。日本人もとても多く、コンビニでも店員の第一声は「いらっしゃいませ」である。典型的な日本人に見えるのであろう。コンビニのねえちゃんに

「お仕事で来たんですか？」

と突然話しかけられ、動揺して

「あ、そ、そ、そうですね。仕事、というか、え、え、試験を受けに来たとですけど」

と答えると

「頑張って下さい」

とのこと。コンビニで応援されるとは思いも寄らなかったよ。

普通のホテルなのでさとうのご飯を調理することはできず、今回はコンビニで購入したカップめんでごすことにする。外食するお金がないので仕方ない。受験出張なんてこんなもんである。観光気分はゼロである。



一度紹介したことがあるが、今回も私の信じる旅行グッズを持ち込んでいる。私は枕が気に入らないと寝れないので、受験などの大事な出張の際には必ず持ち込むことにしている。





今回はカンガルーのキン マでできたラッキーポーチを持ってきている。弊社の九州営業所でも人気沸騰のアイテムである。持っていないとバカにされるレベルとでも言おうか。九州営業所に宅急便を配達にきたフリをしてハンコを求めて欲しい。全員がラッキーポーチから印鑑を出すはずである。



また絶対に遅刻できないので仕掛ける目覚ましは4つである。プロの受験家として当然である。遅刻は最悪である。最近、格闘家なる人々が世に出てきたが、私は自他共に認める**プロの受験家**である。そういえば、大相撲の北尾が引退後にスポーツ冒険家という分野(?)で活躍したが、どういう種別の分野だろうか。今もって不明である



夜の11時くらいまで勉強して、翌日が4時起きのでそろそろ寝ることにする。おやすみなさい。

< 6月10日(金) >

朝の4時に起床して最終チェックをする。6時半にホテルを出て駅に向かう。chatswoodまで約20分。興奮しているので電車の中ではなかなか勉強できない。気が高ぶってくる。受験会場であるシスコに到

着。時間は7時過ぎ。8時半の集合なのでカフェでお茶をしながら本当の最終チェックをしていく。ちなみにこのカフェはラボ試験中の昼食を食べる際に利用される。受験中に撮影するとまずいことになるだろうが、今は通常の営業時間なので問題ないだろう。



8時過ぎに受付に向かい、ほどなくして例のプロクタが登場。おやっという顔をして私を見ている。

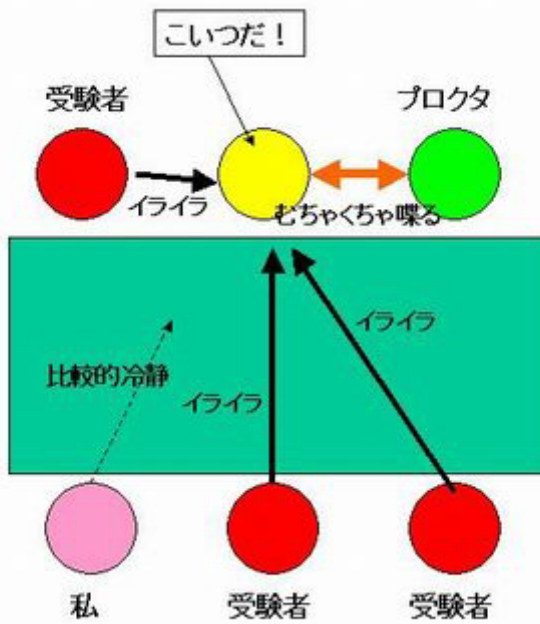
「トリプルに挑戦なのか？ タフガイだな。」

と。タフだから、という思いは全然なく人に負けたくないだけである。

受験に関する注意事項が説明され、いよいよ受験開始。いつもの通りに内容については一切触れることができないのでご容赦頂きたい。とても難しい。何度も途中で動作がおかしくなるが、今まで勉強してきたことを生かして全てを切り抜けていく。

ランチの時間。いつもはプロクタを囲んで食べることになるが、今日は違うシスコ社員も同席するようである。アジア系で、日本人かと思ったが違うようだ。とてもフレンドリーなヤツで好感が持てる。一般的にランチの時間は、受験者は午後の時間で気が気ではないのでゆっくりと食べている余裕はない。考え事をするので食べないという受験者もいるくらいである。試験時間自体は8時間で変わらないのであるが、少しでも早くラボに戻りたくてランチは早く切り上げる傾向にある。

ところがこの同席したヤツがやってくれた。プロクタと仲がいいのか、ずっと喋っている。受験者は普通は無口なので黙々と食べる上に、食欲がないので早く食事が終わってしまう。ところがコイツはしゃべりまくるから一向に食事が進まない。しかも全部食べようとする。私は慣れているので比較的冷静にしていたが、他の受験者はだんだんとイライラが募ってきたようだ。殺気がランチの席上に充満している。それでもこいつはしゃべって一向に食事が終わらない。ものすごい雰囲気ランチであった。



もしかしたら合格できるかもしれない、と少し気が緩んだかもしれない。残り3時間でネットワーク全体の動作がバラバラになった。どこまで戻せばいいのか判断できない。オールクリアする時間はもちろん無い。焦るが「オレは負けない」と自分に言い聞かせてトラブルシュートする。やっと間違い箇所を発見し、全体に疎通確認ができるようになった。VPN間の通信もばっちりだ。問題で指定されている動作を全てクリアできている。あとは細かい機能の設定が題意を満たしているかどうかということである。

残り一時間。全体をもう一度最初から見直していくことにする。途中で間違い箇所を発見。あとで設定した内容が重複されていて、ほんの細かいところで題意を満たしていないことを発見。こういうときは会心の一撃とでも言おうか。合格に限りなく近づいたと感じた。

タイムアップ。プロクタといつものように握手して電車でホテルに戻る。いつ結果が出るだろうか、日本に戻った頃だろうか、などと思いながらメールチェックすると、何と合否メールが届いている。一時間も経過していないが、こういうときもあることは知っている。合格を確信していた私は軽い気持ちでメールを開いた。

トリプルホルダー誕生の瞬間さ、くらいの軽い気持ちで。

しかし、結果は非情であった。何と不合格。スコアそのものを公開できないのであるが、本当に一問くらいの失点で不合格になっている。何だか理解できない状況である。確かに一発合格など望めない難しい資格であることは誰よりもわかっているつもりである。その厳しさを知る私がほぼ合格を確信するほどよくできた内容だったと思っている。だが、結果は間違いなく不合格である。何度見直しても変わらない。

注ぎ込んだ時間をお金を考えると放心状態である。ショックのあまり次回の受験を考える余裕もないほどである。

が、すぐに次に向けて間違っと思われ箇所について解析を始めることにする。できた、と感触が良かっただけに解析も難しいがやるしかないだろう。

夜の2時まで解析を続け、ようやく寝ることにした。明日は空港に向かうため朝の5時半起床である。

< 6月11日(土) >



電車で空港に向かう。Chatswood までは 3AUD くらいだったが、空港までは同じ距離 / 時間くらいで 12AUD くらい。高いなあ。

エグゼクティブカウンターでチェックインするが満席に近いとのこと。しかも私の確保してある席は例によって Exit シートなので人気が高く、隣を空けることはできないだろうとのこと。それでも粘り強く交渉を続け何とか

「できる限り Exit の 3 席全部を確保するようにします。もしダメだった場合に、他の席で隣が空いている席を見つけたらそちらに移動という条件でどうですか？」

とのこと。やるじゃないか JAL。見直したぞ。これからも JAL に乗り続けてやろう。

安心してラウンジに向かって解析の続き。特に土産物を買わない私は解析に没頭していた。機材到着遅れのため少し遅れてフライトである。



実は諸事情があり次回受験できるかどうかわからないのである。受験できない可能性の方が圧倒的に高く、勉強が無駄になるかもしれない。しかし、資格挑戦の目的は他人を凌駕する技術力を見につけることなので、たとえ資格を取れなくても気にすることはあるまい。合格に向けて全身全霊で勉強することに意義があるのである。隣の席の天才 N には絶対に負けたくないのである。

何度でも言おう。オレは負けない。